2023 年 8 月吉日

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°12　ピエール=オリヴィエ・ボノーム

生産地方：ロワール

新着ワイン 5 種類♪

VdF ヴァンクゥール・ヴァンキュ・ブラン 2022（白）

2022 年は、日照りの年だったにもかかわらず収量に恵まれたミラクルな年。今回はボノームのトップキュヴェ POB のソーヴィニヨンブランが豊作に恵まれたため、ヴァンクゥール白に 10%ほどアッサンブラージュされている。また、樽熟成 50%のうちの 5%に今回 400L の新樽を使用した。樽香の嫌いなボノームは、敢えて量の多いヴァンクゥール白に新樽を混ぜ樽の香りを慣らした。出来上がったワインは、ピュアで透明感があり酒質は 2020 年のようにリッチでボリューム豊か！アフターに残るスパイシーな余韻が心地よく、鶏肉などの白身の肉を使った料理やブールブランなどバターを使ったソース料理との相性が良さそうだ！

VdF ヴァンクゥール・ヴァンキュ・ロゼ 2022（ロゼ）☆お久しぶり～のリリースです☆

2015 年ヴィンテージ以来 7 年ぶりのリリースとなるヴァンクゥール・ロゼ！買いブドウはアリゴテと同じブリュノ・ルディから。ボノーム曰く、アリゴテの収穫の際たまたま隣の小さな畑のカベルネフラン、カベルネソーヴィニョンを試食し、青さのない酸の立ったブドウの味わいからロゼワインがピンと頭に浮かび、急きょアリゴテと一緒に購入することを決めたそうだ。今回彼がロゼをつくるにあたりこだわった点は、カベルネの特有の青さが消えるまで収穫をしっかりと待ったこと、そして、フレッシュさを出すために発酵ガスを少しワインに残したことだ。結果出来上がったワインは、黄色いバラやピンクグレープフルーツなどカベルネとは思えない爽やかな香りと、アルコールのボリュームを感じさせないヴィヴィッドでフルーティーな味わいに仕上がっている！まさに即興で買ったブドウでこんなに美味しく洗練されたロゼをつくり上げるボノームは、やはりセンスがあるとしか言いようがない！

VdF ヴァンクゥール・ヴァンキュ・ルージュ 2022（赤）

今回のヴァンクゥール赤は、シェール川沿いの石灰土壌のガメイとロワール川沿いのシレックス土壌のピノドニスのアッサンブラージュ。当初は 2020 年のようにガメイにカベルネフランをアッサンブラージュする予定だったが、ボノームの自社畑 La Boissiere のピノドニスが豊作だったため急遽アッサンブラージュをピノドニスに変更した。また、樽熟成 50%のうちの 10%が今回 400L の新樽だが、ヴァンクゥール白同様に樽香が浮かないよう敢えて量の多いヴァンクゥール赤に使用し樽の香りを慣らした。出来上がったワインは、ガメイの中身がしっかりとありながらアルコール度数 12.3%といつもよりも涼しく、そこにエレガントな果実味のピノドニスがアッサンブラージュされたことで驚くほど洗練された上品で深みのある味わいに仕上がっている！まさにジャイアント・キリングとも言うべく、他の赤のトップキュヴェを凌駕しそうな勢いのある完成度の高いワインだ！

VdF アリゴテ 2022（白）

本邦初リリースとなるアリゴテ！2018 年から買いブドウ生産者としてお世話になっているブリュノ・レディスとの 4 年の交渉の末ようやく手に入れることができた。ボノーム曰く、昨今の気候変動の中温暖化に対応する品種として、酸のあるアリゴテはブリュノ・レディスの所有するどの品種よりも興味があったそうだ。出来上がったワインはアルコール度数が 13.6%もあり、酸のあるアリゴテとは思えないボリューム感がある！それでいて柱となるチョーキーなミネラルと酸が全体にきれいに溶け込んでいて重心が低く、ワインにまとまりがある！ブラインドだと当たり年のブルゴーニュ・ボーヌ・ブランを彷彿させるパワフルさと繊細さを兼ね備えた逸品だ！

VdF ラ・テニエール 2022（白）

かつてない豊作に恵まれたラ・テニエール。他の白が軒並みアルコール度数 13%を超える中、ラ・テニエールは収穫直前に雨が降ったことで度数が 12.5%以下まで下がり、最終的にロワールらしいみずみずしくピュアなワインに仕上がった！ムニュピノから来るニワトコの花の香りにうっすら古樽の香りが重なり、透明感のあるミネラルが優しく口に広がる感じは、どこか昔のティエリ・ピュズラのワインを彷彿させる懐かしさがある！

ミレジム情報　当主オリヴィエ・ボノームのコメント

2022 年は、ブドウが早熟で収量にも恵まれた当たり年！冬のスタートは暖冬で雨が多かった。3 月半ばに 5 月中旬並みの暖かさが続き、ブドウは一斉に芽吹いた。4 月に 0℃前後まで下がる寒波が降り、シェール側のピノノワールの一部に霜の被害があったが、ほとんどのブドウは影響がなかった。開花は例年よりも 3 週間ほど早く、ソーヴィニヨンの中には 5 月下旬に終わるものもあった。また、病気においては、6 月まで適度に雨があったことで、一部オイディオムが蔓延したが、散布を適時に行ったことで繁殖をうまく抑えることができた。ブドウの成長の勢いは止まらず、6 月終わりの時点で早期収穫、そして豊作が予想された。7 月に入るとぱったり雨が止み猛暑と日照りが続いた。8 月は猛暑がいったん落ち着くが、畑は若干水不足の傾向にあった。だが、収穫直前の 8 月 20 日に 20 ㎜前後の雨が降り、この恵みの雨によりブドウは一気に潤いを取り戻し、最終的に多くのブドウを豊作で締めくくることができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

5 月終わりに新しくリリースするヴァンクゥール・ヴァンキュのサンプルを取りにボノームを訪問し、ついでに畑の状況を確認するためドメーヌ近くのガメイとソーヴィニョンブランの自社畑をまわった。

これはボノームのガメイ畑の写真。（写真①）場所は AC シュヴェルニーに隣接する Monthou sur Bievre 地区内にあり、農道を挟んで向かい側にはル・クロ・デュ・テュ・ブッフのル・ブラン・ド・シェーヴルのムニュピノ畑がある。畑ではちょうど季節労働者が芽かきの作業を行っていた。ボノーム曰く、この Monthou sur Bievre の畑は春の遅霜の被害に遭いやすく、対策として剪定の際に他の畑よりも余計に芽を残すため、逆に霜がなかった時は芽かき作業が大変になるのとのこと。近くによってブドウの木を見ると、まだ開花が始まっていないブドウの房が沢山付いていた。（写真②）写真のように芽かき作業の終わったブドウの木をよく見ると、芽かきは木の根元から伸びる不要な芽を落とすだけではなく、風通しを良くするためにブドウの房の付いていない新梢も丁寧に落としているのが分かる。「これだとかなり時間がかかるのでは？」とボノームに聞いたところ、彼は「この畑だけ他と違い空気が停滞しやすいため、湿度が高いとすぐに病気が蔓延しやすい。だから風通しを良くするために時間をかけて丁寧に芽かきを行なうことを心掛けている」と答えた。彼が言うには、今年はブドウの成長ペースが早いわけでもないのに、慢性的な人手不足のため予定よりも少し作業が遅れているようだ。

（写真①）ヴァンキュ赤に入るボノームのガメイの自社畑

（写真②）風通しを考えた丁寧な芽かき作業がなされている！

これはガメイと同じ区画内にあるソーヴィニョンブランの畑の写真。(写真③)土起こしの作業が遅れているため、ブドウの木の根元が見えないくらい畝全体が雑草に覆われている。このソーヴィニョンブランの畑は、ガメイからわずか 30m くらいしか離れていないが、2 週間前に土起こしをしたガメイの畑との差が歴然だ。ボノームが言うには、この時期は瓶詰め作業などカーヴでの仕事も重なり、ボノーム自身もかなり多くの仕事に追われるようだ。「大体慢性的な人手不足になるのは 5 月 6 月の時期。自分は瓶詰め作業が始まるとカーヴでの仕事がメインとなるため、代わりに土起こしや散布を行なうトラクター作業員や芽かき・パリセなどを行なう季節労働者が必要となる。だが、畑作業はいわゆる 3K（きつい・汚い・危険）な仕事のため、ハローワークに求人募集を出してもなかなか応募がないのが現状」と、彼は働き手が見つからないことに頭を抱えていた。幸い、今年はブドウの成長ペースが遅く、5 月末まで土日も自分がノンストップで働けば作業は追いつくと彼は見込んでいる。

それにしても、作業が遅れているとはいえ、ソーヴィニョンの雑草ひとつ取っても Chardon や Erigeron などいわゆる悪い植物が全く見当たらず、多種多様でバランスが良く本当に惚れ惚れする！ボノームはやっぱり良い仕事をしています！

（写真③）まだ土起こしがなされていないソーヴィニョンの畑

（2023.5.3.ドメーヌ突撃訪問より）

※弊社ＨＰ資料にて、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ